

漱石の散歩道

- トイレ
- 休憩場所



12 善国寺 (毘沙門天)

新宿区神楽坂 5-36

「毘沙門さま」の愛称で親しまれ、縁日の賑わいは『坊っちゃん』の中にも出てくる。朱塗りが目を引くこのお寺は、「新宿山ノ手七福神」の一つ。



11 たわらや 田原屋

新宿区神楽坂 5-35 (毘沙門天の西)

菊池寛や佐藤春夫、永井荷風らも通った牛鍋屋。のちに果実屋となり、大正時代初めに洋食屋になったが、平成14年(2002)に閉店。

10 わらだな 薬店 (地藏坂)

(当時：牛込区肴町)

神楽坂から袋町に上る地藏坂界隈は、かつて薬店と呼ばれた。ここにあった和良店亭(わらだなてい)は、色物講談を得意とする寄席で、落語好きの漱石が足繁く通った。

8 帰国後住んだ家

新宿区矢来町3 (当時：牛込区矢来町三中の丸)

明治36年(1903)1月英国より帰国後、夫人・鏡子の実家中根家のはなれに住んだ。



13 そうまや 相馬屋

新宿区神楽坂 5-5

江戸時代に創業した文具店。漱石もこの原稿用紙を使用した。(橋口五葉デザインの竜頭をあしらった漱石山房原稿用紙とは別のもの。) 現在も「相馬屋製」の原稿用紙を手に入れることができる。

14 東京理科大学 (旧東京物理学校)

新宿区神楽坂 1-3

『坊っちゃん』の主人公は東京物理学校出身という設定。明治39年(1906)に建築された校舎が復元され現在「近代科学資料館」として公開されている。館内では「計算機の歴史」を中心とした興味深い展示を見学することができる。(入館無料)

9 かぐらざか 神楽坂

新宿区神楽坂 1~6 丁目

甲武鉄道牛込停車場の開設で発展、山の手随一の繁華街として賑わった。多くの作品に登場し、お見合いした漱石と鏡子がすれ違ったのも神楽坂だった。

4 せいかんじ 誓閑寺

新宿区喜久井町 61

『硝子戸の中』で「西閑寺」、『二百十日』で「寒磬寺」として登場するお寺。区内最古の梵鐘があるが、作品内で書かれている「鉦」とは別のもの。

3 こくらや 小倉屋

新宿区馬場下町 3 (誕生地の隣り)

中山安兵衛(後の赤穂浪士堀部安兵衛)が、高田馬場の決闘に駆けつける際、この店で升酒を飲んだと伝えられる。裏手に漱石の生家があった。



2 なつめざか 夏目坂

新宿区喜久井町 (誕生地の前)

馬場下から南東へ上る坂。漱石の父・直克が命名。



1 誕生の地 新宿区指定史跡

新宿区喜久井町 1 (当時：牛込馬場下横町)

生誕100年を記念して建てられた記念碑が建つ(弟子の安倍能成の筆による)。喜久井町という町名は、漱石の父・直克が夏目家の家紋「井桁に菊」にちなんで名付けた。



6 穴八幡宮

新宿区西早稲田 2-1-11

夫人・鏡子が、漱石の虫封じにお参りした。冬至から節分まで頒布される「一陽来復」の御守で有名。



7 早稲田大学 (旧東京専門学校)

新宿区西早稲田 1-6-1

漱石は、明治25年(1892)から同28年(1895)まで講師をつとめた。



5 新宿区立漱石山房記念館(終焉の地) 新宿区指定史跡

新宿区早稲田南町 7 (当時：牛込区早稲田南町7番地)

明治40年(1907)9月から大正5年(1916)に亡くなるまで過ごした家があった場所。この家は「漱石山房」と呼ばれ、「木曜会」には多くの門人が集まった。敷地の一部は「漱石公園」となっており、富永直樹作の漱石の胸像と「猫墓」がある。

